

二葉 東京支部だより

今、何が変わらねばならないのでしょうか！

東京支部長 若林さき子



昨年の夏は稀にみる猛暑でしたが、会員の皆様には無事乗り越えられお元気にお過ごしのことと存じます。

さて、母校諏訪二葉高校がこの名前に変わったのは昭和23年のことですが、それを知って今まで以上に母校を身近に感じるの私はその年に生まれたからでしょうか。

戦争を知らない私たちの世代が役員を引き受ける時代になりましたが、引き受けてみてこれほど大変な事だと強く感じました。

先輩方の変な苦勞と努力で脈々と受け継がれてきた、どこの学校にも無いようなこの素晴らしい同窓会を今後維持、発展させていくためには、これまで通りの運営のやり方では難しく、思い切った改革が必要だと痛感いたしました。

そこで、同窓会を楽しいものにして行くのにはどうしたらいいのか、何をまずなすべきかの順位を考えてみたいと思います。

役員になってみてわかりましたが私たちの世代から下の役員は専業主婦が少なく、65歳の定年まで働く方々が多くなって参りました。これも時代の移り変わりでしょう。厳しい経済環境を反映して一度確保した職場にはできるだけ長く留まる必要があり、生活自体が仕事優先になってきております。その仕事の合間にボランティアで役員をやって頂くにはそれなりの環境を整えなくては役員の成り手が無くなります。

平成22年度 東京支部 役員



- | | | | | | | |
|-------------------------|--------------------------|-------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|
| 記 録
野中あけみ
(28回生) | 記 録
深瀧 佳子
(28回生) | 記 録
中村ちづる
(28回生) | 会 計
秦 礼子
(23回生) | 会 計
常松 竜子
(23回生) | 会 計
杉本 澄江
(21回生) | 会 計
小松喜久子
(21回生) |
| 副支部長
伊藤 久子
(13回生) | 支 部 長
若林さき子
(19回生) | 副支部長
稲村ほなみ
(19回生) | 副支部長
下澤 泉
(19回生) | 副支部長
下澤 泉
(19回生) | | |

現にこれまでの年次順送り役員人事はついにこの私達の代から不可能になってしまいました。
時代は変わりました。
私は20年間小さいながらも会社を経営してまいりました。その経験からしても、効率化の第一歩は無駄をなくすことだと思えます。つまり東京支部の役員会、幹事会、本部等の理事会のあり方や、また他校との付き合い、資料作成、その他をできるものから見直して行くのがまず第一だと思えます。
そして年一回の総会を楽しいものにしていけたらと思えます。
後輩の事を考えてこれからの改革に会員の皆様のご理解と応援、ご協力を心からお願ひしたいと思います。

本部定期総会のお知らせ

日 時 平成23年 4月23日(土) 9:30~
会 場 RAKO華乃井ホテル (諏訪市湖畔)
☎ 0266-54-0555
講演講師 信州大学・諏訪東京理科大学
英語講師 有賀 メアリー氏
会 費 5000円
申 込 本部事務局 ☎0266-52-9595

平成23年 東京支部総会のお知らせ

日 時 平成23年 5月24日(火) 10:30~15:30
会 場 日本青年館 (新宿区)
4 F ホテル宴会場「アルデ」(元東洋軒)
☎ 03-3475-2525
講演講師 劇団文化座座長・女優 佐々木 愛氏
演 題 母として女優として (仮題)
会 費 5000円 (昼食パーティ)



総会報告

平成22年
平成22年度副支部長
稲村ほなみ

外苑の緑映える平成22年5月25日(火)、諏訪二葉高校同窓会東京支部総会が日本青年館において開催されました。出席者は百八十八名、来賓として母校の古厩校長先生、恩師の平島先生、河西同窓会長、金沢副会長、今井副会長、河西副会長にお越しいただきました。大高副支部長の開会挨拶の後、18回生の平林順子様の伴奏で校歌斉唱、その後物故者の皆様に謹んで黙とうを捧げました。

中坪支部長より「就職・育児・親の介護を経て役員を受けました。多くの方との出会いがあり、ご協力をいただき感謝しております。女性の社会進出の増加等に伴い同窓会に対する意識の変化も見られますが、これからは男性会員の参加も期待し、活動を発展させることを願っています。」と挨拶がありました。また、会員の高女39回生宮崎玲子様が、本部総会で「世界の台所から」と題する講演をされたとの報告もありました。

古厩校長先生からは「二葉は勉強も部活も活発です。少子化が進む中で、長野県内では高校の統廃合の計画があり、また、他校において中高一貫教育の実施も検討されており、県内の高校教育も変化して行く予定です」と、時代を反

映したご挨拶をいただきました。河西会長からは、新任のご挨拶と本部の事業報告、本部維持費の使い方等のご説明がありました。

第一部定期総会は、18回生の木下玲子様が議長に選出され、21年度事業報告・決算報告・監査報告・22年度役員改正・事業計画・予算・内規一部改正などが承認されました。

第二部は片野満氏をお迎えし、映像を鑑賞しながら「諏訪のおんばしら」を講演していただきました。タイムリーな企画であり、語りも良かったと大変好評でした。

第三部の茶話会では、高女39・40回生及び高校1回生6名の80歳をお祝いして花束を贈呈し、代表の菊川翠様からご挨拶を戴きました。次回の総会は、高校2回生の多数のご出席を心からお待ちしております。

来賓の平島先生には「土屋文明と二葉」と題して、持参の資料を基に、土屋文明高女第三代校長の教育と短歌を語って戴きました。最後に「白き翼」を歌って閉会しました。総会がスムーズに進行でき、役員一同心よりお礼申し上げます。

なお、22年度の役員を決めるに当たり、諸事情により役員を出せない学年があり、先輩達が協力し合っただけで役員を出しました。男性の卒業生の加入、総会・幹事会の開催曜日の見直し等も含めて、若い世代への引継ぎが今後の課題でしょう。また、会費納入者の減少傾向についても検討が必要でしょう。

平成21年度諏訪二葉高等学校同窓会東京支部決算報告

(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

1. 本会計

<収入の部>

(単位：円)

項目	予算	収入	備考
1 前年度繰越金	2,864,240	2,864,240	
2 維持費	1,500,000	1,448,500	
3 寄付金等	0	52,000	総会講師 50,000円 他2名様
4 雑収入	1,600	1,587	貯金利息
収入合計	4,365,840	4,366,327	

<支出の部>

(単位：円)

項目	予算	支出	備考
1 総会講師謝礼・お車代	120,000	120,000	川合優子様
会場費・諸経費	100,000	76,825	総会資料印刷代・会場機器代等
2 支部便り作成費	170,000	124,489	東京支部便り「二葉」第14号3,000部
3 弔慰金	10,000	13,039	弔文レタックス 弔電
4 役員通信費・交通費	160,000	145,280	役員通信費：53,000円 交通費：92,280円
5 役員会費	150,000	111,766	役員会9回
6 幹事会費	250,000	192,490	幹事会2回
7 送料・通信費	380,000	270,337	総会案内送料 宅配便 メール便 はがき代等
8 印刷・コピー費	150,000	130,111	封筒・総会案内資料印刷代・用紙・インク・コピー代等
9 事務用品費	15,000	1,215	領収証等
10 渉外連合同総会	30,000	17,440	本部総会交通費
11 雑費・予備費	80,000	84,940	東京同窓連・南信同窓連
	15,000	4,360	振込用紙印字代等
支出小計	1,630,000	1,292,292	
12 東京支部同窓会基金積立金	50,000	50,000	
13 次年度繰越金	2,685,840	3,024,035	
支出合計	4,365,840	4,366,327	

2. 東京支部同窓会基金

(単位：円)

項目	予算額	実行額	備考
1 前年度繰越金	2,698,000	2,698,000	
2 21年度積立金	50,000	64,000	積立金50,000円 定額満期利子等14,000円
合計	2,748,000	2,762,000	次年度繰越金

※総会会計報告

(単位：円)

収入

・会費 (5,000×205人)	1,025,000
・本部より会場費	10,000
・本部より御祝儀	10,000
・本会計より	196,825
合計	1,241,825

支出

・シダックスレストランマネジメント会食代	1,012,935
・講師謝礼	120,000
・諸経費	108,890
合計	1,241,825



80歳のお祝い(高女39・40・高校1回生)

上記の通りご報告いたします。

平成22年3月31日

会計係 杉浦澄尾 ㊟
市川みどり ㊟

上記は会計監査の結果間違いありません。

平成22年4月8日

会計監査 竹村さえ子 ㊟
小松桂子 ㊟



平成22年総会
映像と講演

「諏訪のおんばしら」

講師 片野 満氏



①学生寮長善館の御柱祭

学生寮長善館は、その昔の諏訪高島藩の藩学「長善館」の名前を戴いて明治24年、東京本郷に誕生し、所在地の変転はありましたが、延々一世紀を越える歳月に亘って多くの諏訪地方出身の学生たちを世に送り出して来た学生寮です。

調布仙川にある現在の長善館の館庭には諏訪神社の分社があり、昭和25年の寅年から長善館でも御柱祭が行われるようになりました。在館中に一度は経験出来るようにとの配慮から、四年に一度、用材の調達や地元の理解などに苦労し



上社木落し

ながらも続けられて来ました。諸般の事情から一時中断のやむなきに至ったものの、平成15年5月の新長善館誕生を機に、折から寅年の御柱年でもあり、そのお祝いも兼ねて、諏訪大社から御柱の一部をお譲り戴き、長善館御柱祭が再開されることになりました。当日は諏訪から神職を迎え、長持ちも出て賑々しく御柱を曳き、古式に則った冠かんむり落しから建御柱まで執り行われました。今年もまた御柱祭の年が巡って来ました。六年前と同様、諏訪からお譲り戴いた御柱での御柱祭を楽しみにしているところです。

②諏訪のおんばしら

御柱祭の起源については定かではありませんが、室町時代に書かれた「諏訪大明神絵詞」によると、「寅申の支干ニ当社造営アリ、一國ノ貢税、永代ノ課役、桓武ノ御年ニ始マレリ」と記されています。この絵巻物は六五四年前の南北朝時代に諏訪円忠が「縁起・上中下」三巻と「祭・七巻」の計十巻本として著し、巻末には後光厳院と時の將軍足利尊氏の外題奥書を賜った超豪華版だったということですが、残念ながら原本は散逸し

今は行方不明のままになっています。『本宮造営之目録』の中には、鎌倉時代に信濃の国各地区に幕府から御柱曳きが割り当てられていたとあり、室町時代の末頃の記録には「祭ハ神事ノミニテ人々ノ渡来ナシ」と記されています。

ところが伊勢神宮の式年造営記録によると、ご用材のお木曳きは室町時代半ば頃に盛んになり、五十鈴川の川曳き、綱打ちが行われ、祭には法螺貝が鳴り響き木遣歌が流れ、梶子衆も参加し催物も出て、華やかに行われたとあり、これが諏訪の御柱祭に影響を与えたと考えられています。

諏訪藩支配となった江戸時代になると、民衆も参加する楽しい祭りとして盛んになっています。現在では、諏訪地方関係の人々の奉仕によってそれぞれの御柱を曳き、盛大に御柱祭が執り行われているのはご承知の通りです。

③映画「諏訪のおんばしら」

この作品は昭和時代最後の御柱祭の映画ですが、私はこれを単なる記録ではなく、現代の私たちが失いかけていく「人と人との絆」「心と心の触れ合い」といった、人間として生きる原点ともいえるべきものを、神と人と風土が一体となって燃え上がる一大スペクタクルの中に探る作品にしたいと考えました。



下社木落し

「長さ17メートル重さ10トンの樫の大木を延々15キロに互むたつて曳き、神社の境内に建てる単純素朴な祭であるが、一人一人が一人の力で曳き、壮大な御柱を動かす。自分の一つの力が加わって御柱が動く。人のための祭りではない、自分自身の祭りー祭りを通して心が通い合う。一つの事柄にこれだけ多くの人々が集まり興奮し、感動することが他にあるだろうか。

神と人をついに結び付けて展開する諏訪の御柱祭は、神と人と風土のあり方を、今に生きている私たちに問い掛け語り掛けているのかもしれないー私はこの作品をこのように結んでいます。

④映画をつくるということ

私は岩波映画で三十余年、大小

五百本からの作品をつくって来ました。映画「諏訪のおんばしら」は、その最終段階で巡り合えた、ふるさとの映画づくりでした。

一つ一つの作品形成の中には、多くの人との出会いがあり、別れがあります。その積み重ねが、年輪のヒダがものを生み出す原動力となって次の作品に結実していきます。私の人生の歩みに沿って残されて来た作品の数々：特に御柱祭とこの作品を通して得たたくさんの有形無形の出会い、触れ合いの数々：今日も私はこの機会に、こうして多くの皆さんとの出会いの場を持つことが出来たことに、改めて御礼申し上げます。本日は誠に有難うございました。

講師プロフィール

昭和9年東京生まれ 小学4年生で上諏訪に疎開。諏訪清陵高等学校卒業後日本大学芸術学部映画学科へ進学。在学中、二葉生製作の映画「夏休みのうた」を監督。卒業後、岩波映画入社。数多くの科学教育映画を製作。最近では母校創立百周年記念ビデオ「清水ヶ丘にうたう」の脚本・監督を担当。また以前から諏訪の子弟のための学生寮「長善館」に長く関わり、現在も顧問を務めている。

近年は諏訪を舞台にした歴史小説や芭蕉と共に奥の細道を旅した諏訪出身の河合曾良にスポットを当てた小説など、多くの興味深い作品を著し、作家としても活躍中。

母校では…①

自己紹介に代えて

諏訪二葉高等学校教頭 保坂 美代子

この四月に二葉高校に着任いたしました。女性管理職の少ない長野県にあって本校でも初の女性教頭ということで、このたび東京支部だよりへの寄稿の機会を頂戴しました。顔写真を添えるご依頼でしたが、今回は私の気に入りの写真とそれに纏わる思い出をご紹介申し上げ、自己紹介とさせていただきます。と思います。

今年三月まで教頭を務めていた、出身地松本の松本工業高校定時制の前任は、県教育委員会事務局の指導主事でしたが、その時幸運にも、青年海外協力隊として発展途上国で教育分野の支援に携わる、本県の現職教員の活動を視察する機会に恵まれました。添付の写真



はその折に、中米ニカラグアの小学校で子ども達と撮ったものです。ニカラグアは中南米でも最貧国に数えられ、経済発展のためにも国民の教育レベル向上は最重要課題となっております。そこで、日本から派遣された若い先生達が新たな教授法の普及を進めながら、より良い指導方法の研究と実践に献身的に取り組み、子ども達も学ぶ楽しさに目を輝かせて授業を受けている光景に接し、教育の原点を見ることができた。教育は国家百年の計」を再認識した、忘れ難い経験でした。

さて、本校はその百有余年の歴史の中で、平林たい子、藤原いなど、多くの逸材を輩出してまいりましたが、その類い希な才能を開花させたのは、土屋文明、大村はまをはじめとする優れた師の薫陶であったことは言うまでもありません。このような輝かしい伝統を受け継ぐ学校に赴任して半年が過ぎ、教育に携わる者の責任の重さと先人の偉大さに、改めて思いを致しているところです。微力ながら本校発展のため努力いたしますので、東京支部の皆様には今後とも母校へのご支援とご協力を、よろしくお願い申し上げます。

母校では…②

部活で活躍!! 男子高校生紹介

陸上部

2年3部 ^{たけむらたかひろ} 竹村昂浩(部長)

陸上部は現在、選手17人、マネージャー3人の20人で活動しています。

そしてインターハイには去年3人、今年2人出場しています。そんな陸上部について紹介したいと思います。

陸上部では短距離グループと、長距離グループに分かれて部活を行っています。活動の場所は違いますが、学校でお互いのことを話したりして和気あいあいと一緒に活動することができます。部活をするにあたって、一人一人が大きな目標を持ち、それを達成するにはどうしたらいいのか、何が必要なかを考えるようにしています。

そして、お互いを刺激し合いさらなる競技能力の向上に努めるようにしています。



天文部

2年5部 ^{ごみゆうた} 五味裕大(部長)

諏訪二葉高校天文部です。

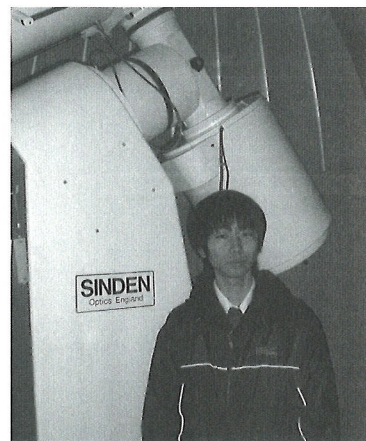
天文部は昨年の4月に同好会から部活になり、部員も30人以上になりました。毎週月曜日に活動しており、屈折式と反射式の望遠鏡を使って太陽系の惑星の観測や写真撮影をしています。合宿は年2回程度行っており、今年の夏合宿はペルセウス座流星群の極大にあわせて流星観測をしました。流星の記録に挑戦しましたが、あまり天候に恵まれず多くの記録が残せませんでした。それでも、合計で100個以上の流星を見ることができ、天体現象の神秘に触れることができました。流星観測は長期的な活動にしたいと思っています。

また、1か月に2回、茅野市八ヶ岳総合博物館主催で行われる観望会に参加して口径40cmの望遠鏡で惑星だけではなく星雲や銀河なども観望しています。これらの観望をもとに各自印象に残った天体について調べ、文化祭で展示発表しました。

校外活動にも参加し、昨年の3月に東京大学木曾観測所で行われた「銀河学校2010」に天文部から2名参加することができました。僕は、銀河系に広く分布するダストについて研究しました。まだ、研究は続いていて、来年の3月に筑波大学で開催される「日本天文学会ジュニアセッション」にて研究の成果を発表する予定です。

これからの天文部の目標は、限られた時間の中でより多くの天体を観測することです。そして、その観測の成果を文化祭での展示発表で大勢の人に天文学の神秘に触れてもらいたいと思っています。

~2010年11月寄稿~



活躍する同窓生

男子登場

大空を翔る58回生

朝倉 司さん

推薦者
下澤 泉 (高校19回生)

子どもの頃、男の子が誰しも抱く乗り物への憧れ。その思いを育みプロパイロットのライセンスを取り、航空会社に就職した朝倉司さん。『東京支部二葉だより』に男子卒業生として初めて登場して戴きました。

朝倉さんは大学在学中にアメリカでパイロットのライセンスを取得し、平成22年4月から、羽田空港にあるスカイマーク本社に勤務する快活なナイスガイです。子どもの頃から乗り物が大好きで、いつしかそれが飛行機への憧れとなり『パイロット』になりました。



「い」という夢が芽生えていった朝倉さんは、高校で進路を考え始めた時、当時東海大学法学部に在学中のお兄様から東海大学にパイロット養成コースが新設されるといいう情報を貰いました。お父様も東海大学に関わりを持って居られた事から、この情報を良い巡り合わせと捉えて勉学に励み、工学部航空宇宙部航空操縦学専攻に1期生として入学して、40名の仲間とともに神奈川県平塚市の湘南キャンパスで学びました。

在学中、大学のカリキュラムにより2年生の秋から1年半、米国内ノースダコタ州立大学航空宇宙部に留学し、パイロットを養成するキャンパスで世界に誇る航空宇宙学を学び、世界中から訓練に訪れる千人近い人達に混ざって初期訓練を受け、現地でパイロットの資格を取得しました。

州立大学のあるグラントフォークス市はカナダとの国境近くにあることから、冬は零下30〜40度の極寒の地となる過酷な気象も体験してきました。

さて朝倉さんは、茅野市北山の出身で、お祖母様は二葉の3回生お母様も卒業生です。

同期の58回生237人(男子は78人)の中で、野球部に所属し、小学校から続けてきたピッチャーや外野手で体も鍛えました。

そして今、念願が叶ってスカイマーク社に就職、3月迄の1年間

は地上研修で事務的な仕事に就き、「実務と共に後輩を教育する責任ある仕事も任せられガッツリ仕事をしています。やり甲斐を感じる性格だから苦になりません」と爽やかに答えてくれました。

朗読のプロとして

小劇場主として

齊藤由織さん

推薦者

鈴木 泉 (高校27回)

毎年十一月が近づくと、文化庁芸術祭参加の話芸朗読舞台へのお誘いが届きます。昨年は「オイデイプス王」。有名なギリシャ悲劇を熱演。今年は「木馬館のユリッペー下町の伝説」。映画「天国と地獄」で、かのエノケンも演じたと言う作品を、朗読劇で演じようというもの。脚本と演出は長野県出身の西澤實先生。出演は、話芸集団「ぶれさんぼうず」二七期の卒業生である、わが齊藤由織さんはその主要メンバーです。

今年も、話芸の力を実感させてくれる素晴らしい舞台でした。由織さんは、浅草の木馬館で働く若者を軽妙に演じました。本当に彼女が大正時代を生きた軽薄な若造に見えた瞬間がありました。

話芸集団「ぶれさんぼうず」は二〇〇〇年に、西澤實先生のもと、日本大学芸術学部放送学科の同窓生を中心に結成され、毎年この定

ていく企画が報じられています。そしていよいよ朝倉さんもジェット旅客機操縦の為の訓練に入っていきます。

お客様を乗せてフライトする朝倉さんの飛行機にぜひ乗せて頂きたいと、取材するうちに夢が生まれた私です。

期公演のほか様々な活動をしていて、齊藤由織さんはその創立メンバーです。ソロ活動としては、

中国人バイオリニスト劉薇さんとともに、朗読と音楽のコラボレーションのイベントを行ったりフジテレビアナウンストレーニング朗読部門の講師、声優や役者の卵の訓練の他、カルチャースクールで朗読の愛好者を指導するなど多彩な活躍をされています。

由織さんは、高校時代、放送部に三年間所属。その放送部員の時代に、NHK全国高校放送コンテストに参加。この事が現在の活躍のきっかけとなりました。

由織さんは、放課後遅くまで残って、コンテストの朗読の練習に励んでいました。

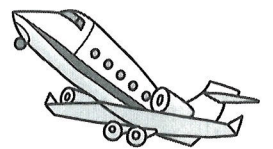
その後、日大芸術学部放送学科に進学。恩師西澤實先生に出会い卒業後も引き続き朗読の教えを受け、今年九二歳になるといふ西澤先生のもとで、話芸・話術を磨き続けて、今日に至っています。

また、そういう活躍の一方で、小劇場のメッカ下北沢の小屋主と



いう別な顔も持っています。下北沢から程近い「しもきた空間リパティ」というキャパシティ一〇〇名ほどの空間のほか、今年の七月には、そのビルの地下に「G E R K I 地下リパティ」を新たに創設。性格の違う二つの小屋は、下北沢の文化の一翼を担っていると云って良いでしょう。

小屋主というところで言えば、この小屋を使って、二葉高校同窓会のために何か出来ないかと相談しています。共学になってからの新しい世代向けに、二葉生限定のお笑いライブを開くなどの企画はどうか?なども考えています。皆さんそんな時にはぜひ参加してくださいね。



歴史を紐解く

私版画文集『釜無川』より

袴の思い出

高女24回生 中根 志づ



昭和初期私の学んだ旧制長野県立諏訪二葉高女は、古い木造の校舎で、制服も県下で一番あとで決められたのではなかったかと思えます。だから4年間に在学中ずっと袴の生活でした。

私達が卒業した翌年あたりから制服が決められ、立派なモダンな校舎が落成して引き移ったのです(当時地方の女学校は4年制)何しろ学校のモットーが「質実剛健」という男子校にふさわしいようなそれでしたから、どんなに豊

かな家の少女もそうでない家の子供でも木綿の地味な着ものでした。だから唯一のおしゃれは袴で、夜寝る時はどんなに疲れていても座布団の下にきっちりたたんでね押しをしたものでした。

少女たちはそこに乙女の夢をそつと包んでいたのです。

古びた校舎も山国の春が訪れると、校舎を埋めるようにして桜花が咲き、教室の窓からは周囲の山なみを写した諏訪湖が眼下に見える美しい風景のまなびやでした。

思い出いっぱいあの懐かしい袴。共に学んだ友の多くは、もうそのうつし身はこの世にありません。(2003年8月15日記)



志づ

これは平成17年の総会時に手紙に添えて送ってくださいった絵と文です。役員が大切に保存していたものを皆様に紹介いたしました。次の文章は今年95歳の中根さんに画・文の掲載を承認して頂いた折りに、お寄せ頂いた手紙です。

諏訪高女(旧制)を卒業してから幾歳霜。はるかに半世紀を超えました。クラスメートの多くは天上の人となりました。

思い出も薄らぐ中で、忘れられないのは草鞋ばきで塩尻峠を越えて枯梗ヶ原への葡萄狩り遠足。

峠にはかれんな撫子の花が咲いていました。湖が結氷すると共に、

下駄スケートで体育の時間として全校半日を諏訪湖せまし(?)と滑り廻ったことなどで、とんと学問に関係ないことばかり。

本当に勉強したのは卒業後のことですが、その基本となるのは高女生活です。

今、周りの優しさに守られての日々です。

東京支部だより「二葉」

第一号誕生の道

元東京支部長(高女36回生) 青木武子



つて一号は「東京支部のあゆみ」として沿革史と共に発行した。

沿革史は昭和25年からであるが各年素晴らしい講師をお招きして、会員の熱意が伝わって来る。ただ講演の内容が残っていないので、会報があったならと惜しまれる。

改めて支部だより「二葉」一号を開いてみる。当時支部

14号が送られて来た。私と東京支部で共に活動した方達が、発展に又改善に尽された事など述べられており、興味深く読ませて頂いた。そして「東京支部だより」が後輩の方々によって継続している事を、二十年前に第一号を発行した私も当時の編集委員の方と心から喜ぶたい。当初「会報毎年となる」と支部長は続かないよ」と先生から御注意を受けたが、その事もあ

改めて支部だより「二葉」一号を開いてみる。当時支部長は二年間だったので総会も二回講師もお二人お願いした。一年目の講師は高原須美子先生(元経済企画庁長官)で、私にも諏訪にもご縁があった。演題「八十年時代の経済学」は今読むと現在の状

況をびたりと言いつてられている。第二号は藤原正彦先生「論理と情緒」。お話の最後に「情緒のある人は「国を愛し平和を愛する」と結ばれている。折りしも二ヶ月後に湾岸戦争が勃発したが二ヶ月で終りほつとする。先生には「国家の品格」という名言があり、今も人々の心に深く残っている。先生の母上藤原てい先生(高女27回卒)には「御大喪の礼に参列して」を一号に書いて頂いた。昭和天皇の崩御により昭和の歴史は幕を閉じた。

終りに、最初という事は、どんな場合でも苦勞はつきものであるが先輩後輩の応援があったからこそと思う。最後のページに広告を載せて費用を捻出した。大勢の方々から多額のご寄付と励ましを頂いた。本部からも力強い応援を得てようやく発行することが出来た。

表紙の「二葉」も高女28回卒の今井綾子様にお願し、見る度に素晴らしいと感謝申し上げます。



心のふる里「白樺会」

矢花ミチ(高女41回・高校2回)

初桜の訪れに心がときめく頃、毎年開催される旧制女学校最後の41回生・高校2回生の同期会「白樺会」は、既に半世紀を重ね傘寿を祝う年を迎えました。今年は信州所縁の新宿中村屋に遠来の学友もお招きし、35名の盛会に歓声が湧き郷愁が漂いました。毎年幹事の豊富なアイデアのもとに開催地も幅広く「諏訪の同期会」「名所史跡の一泊旅行」「一寸瀟洒なレストランでのおもてなし」と手塩にかけて下さる中で、昔の面影に巡り会う喜びはひとしおです。

同期会だより

昭和19年憧れの女学校へ入学した喜びも束の間、厳しい戦局の中で校舎の一部は工場に変わり、私達も疎開してきた中央気象台へ学徒動員で派遣され、終戦を迎えました。敗戦・民主化と社会の変貌を背景に諏訪高女も二葉高校へ船出し歴史的な学制改革を体験しました。入学時百五十余名の生徒数は疎開・引き揚げの転校生で三百余名のマンモス学年に変わりました。伝統の自主・努力・感謝の校風を学ぶ中に、編入生の都会的センスや海外の異文化が交流し新しい時代への息吹が芽生えました。飢餓と耐乏生活の中で純粋に乙女心を寄せ合い学び人生を語り夢を育て助け合った絆が、白樺会の根元にな



り、思いやりと纏まりの良さはひそかな誇りに思えます。学友のさわやかな微笑みに銀髪が輝き、凜とした足跡を語るお国訛に勇気と安らぎを覚えます。自己向上の源泉が培われる無形の財産の白樺会に感謝し、友達の健やかな長寿と再会をお祈りします。

高校卒業後五十年目の同期会

関 美智子(高校12回)

東京在住の私達高校12回生は、同期会を年一回開催しております。今年も、卒業50周年目の記念の年でもあります。平成22年6月24日アルカディア市ヶ谷赤城の間にて第38回しらかば会を開催しました。当日は晴天、外堀の緑の葉陰から小鳥が会を祝すかのように囀り、紫陽花が美しく咲いていました。今年も平日開催と御柱祭のため、諏訪からの参加者はなく、出席者は小町谷先生と私達計20名。再会

を祝し会席膳を味わいながら語り合いました。小町谷先生は毎年出席して下さいます。先生は今年喜寿を迎えられ、現在は短歌にご精進。先生の短歌が今年5月の朝日新聞歌壇に掲載され、その短歌を披露して下さいました。煙草吸う教師が禁煙説く如く核持つ国が核禁止説く

小町谷郁子 次にご自身の近況報告(介護・仕事・趣味・ボランティアなど)に始まり、情報交換など話題は尽きませんでした。最後に小町谷先生にお祝いの花束を贈呈し記念撮影。来年の再会を約束して閉会しました。本日の会からエネルギーを頂き明日への活力にと思いを新たにしました次第です。卒業50年の歳月は、個人差はありますが山あり谷ありの人生、懸命に生きたドラマがありました。同期会とは、素の自分を素直に出せる友がいて、支えて



くれる仲間もいて、年一回の集まりの場は至福の時間を与えてくれます。卒業50周年目の同期会は共に過ごせた貴重な楽しい一日でした。

第28回生同期会

中村ちづる(高校28回)

「さわやかに、ものみなさめて…」最近、この歌をよく歌います。二葉高校第28回生同期会も、二葉高校校歌・白き翼を歌ってお開きになりました。

上京してから、30数年が経ち、二葉で学んだ事も、大根坂を汗だくで登った事も、記憶のあなたに追いやられた頃、二葉高校同窓会東京支部の役員のお話を戴きました。「二葉高校同窓会東京支部に、若い方も参加して欲しい!」「この会が尻つぼみにならないように、もっと活性化させたい!」「微力ながら、正副支部長さんのお役にたきたい!」

役員会に参加する毎に、二葉高校同窓会東京支部に愛着が湧いてきました。まずは、私達第28回生の顔合わせからと、第28回生同期会を企画しました。

会場 銀座Saito フランス料理エミユ
会費 3150円
メニュー スープ・前菜・魚料理・肉料理・デザート・コーヒー

11時30分から、お店の方の好意で、午後4時頃迄、おしゃべりに花が咲きました。

次回の同期会は、神楽坂で毘沙門天参拝とランチ、甘味処で昔な



がらのあんみつを戴いて、自由解散の予定です。築地市場散策とお寿司のランチ。浅草「浅草寺」参拝と、文豪が愛した「天ぷら」ランチ。靖国神社と千鳥ヶ淵の桜も見事です。

同期会の面々と訪れたい所がたくさんあります。二葉高校同窓会東京支部をもっと盛り上げたいと、始めた同期会ですが、子供が成長し、親離れ子離れの時期を迎えた私の新しいライフワークになりつつあります。

役員にならなければ。出会う事がなかった二葉の同窓生です。役員会を重ねる毎に、親しみが増し、二葉への思いが増していき

ます。自分では、忘れていたと思う、ふるさと、ふるさとの友達、先輩、後輩を大切にしたいと思う年になってきたようです。

平成21年度東京支部活動内容

役員 支部長 中坪 清子 若林 さき子 稲村 ほなみ
 副支部長 大高 よし美 市川 みどり
 会計 杉浦 澄尾 鈴木 泉 斎藤 由織
 記録 伊藤 みすず 小松 桂子
 監査 竹村 さえ子

年月日	事項	備考
6/6	第1回役員会	年間事業計画 役員役割分担
6/21	第2回役員会	第1回幹事会準備 本部理事会・同窓連関連について
7/26	第3回役員会	幹事会資料準備
9/2	第4回役員会	幹事会資料印刷・打ち合わせ
9/8	第1回幹事会	21年定期総会会計報告、アンケート結果報告 21年事業の進行状況、会報発行計画について 維持費納入者拡大について、同期会活動報告
11/15 (H22)	第5回役員会	今後の予定と確認
1/15	歴代正副支部長会	現況報告と懇談会 (出席者29名/於アルデ)
2/7	第6回役員会	中間会計及び監査報告、 第2回幹事会準備 次期定期総会について 『母校卒業生の東京支部入会のお誘い』について
2/21	第7回役員会	幹事会資料準備、印刷
3/2	第2回幹事会	中間会計及び会計監査 会則改定について 東京支部だより第14号の披露 総会関連事項検討、次期役員 (案) について
4/18	第8回役員会 (拡大)	総会関連事項確認、冊子原稿検討 役員・次期役員候補者による総会準備、役員引継ぎ、 会計監査
5/23	第9回役員会(拡大)	役員・次期役員候補者による総会前々日準備
5/25	平成22年総会	出席者 197名 (会員191名来賓6名)

・会報 東京支部だより「二葉」14号発行
 ・本部理事会出席5回、本部定期総会出席
 ・南信同窓連出席4回、東京同窓連出席3回、南信同窓連親睦旅行参加
 ・正副支部長4人会

教育者(諏訪高女第三代校長)

土屋文明と二葉

大正7年から4年間諏訪高女に赴任した頃の事を詠んだ短歌。
 ○語らば眼かがやく処女等に思ひいづ諏訪女学校にありし頃のこと
 ○槻の木の上なるわが4年幾百人か育ちゆきにけむ
 ○水海の朝の塩山あざやかに咲見ゆ少女等と共に越えにき
 ○温泉わけば借りて住む家の前をのろく流れ行く夜渡川
 ○高き世をただめざす少女達ここに見れば伊藤千代子がこぞかなしき

厳しいが素晴らしい先生という思いの卒業生達は、土屋時代の母校を黄金時代として後々も誇ったが、事実、土屋文明は全身全霊をあげて教育の実践に没頭したのだった。

記念誌「二葉百年のあゆみ」より
 平島先生提供の資料から

ロビーコンサートのお知らせ

日時 平成23年9月4日(日)10:30~11:30
 会場 諏訪二葉高等学校玄関ロビー
 内容 明治ピアノと大正オルガンの演奏・その他



謹んでご冥福を
 お祈り申し上げます
 (平成23年1月31日現在)

高女27 赤羽 やす子様(宮澤) H.20.10
 高女29 笹岡 弥 生様(久保田) H.22.9
 高校3 井上 玲 子様(児玉) H.22.9

3 島立 規久子様(白田) H.22.6
 4 林 芳 子様(土橋) H.23.1
 8 露木 サチ子様(後藤) H.22.11
 11 矢島 千 春様(五味) H.21.
 11 塩澤 敏 子様(永田) H.22.2
 11 花岡 紀 代様(井沢) H.20.11
 12 中村 洋 子様(中沢) H.22.7
 28 植草 純 子様(河西) H.20.2

事務局だより

☆東京支部便り「二葉」と総会案内は基本的に維持費を五年間に一度でも払っていただいた方にお送りしております。

または幹事までご連絡ください。
 ☆東京支部は年千円の維持費で活動しております。しかし、納入額は年々減ってきており、現状では活動に十分とはいえないところまで来ております。

☆「二葉の風」をできるだけ多くの卒業生にお届けする機会となる会報。先の幹事会で二ページ増しの承認を戴いての発行となりました。同窓会に関わって実感した歴史の重みと共に「今」を
 ☆本部定期総会への申し込みは東京支部が一括で行います。ご出席希望の方は支部長までご連絡下さい。

編集後記

☆「同期会だより」はそれぞれの学年の企画に「さすが二葉生」と脱帽の思いです。こんな同期会をいつまでも続けて戴きたい気持ちでいっぱいです。
 ☆不安だった「活躍する同窓生」探しは嬉しいことに次々と紹介して下さる方があり、割愛せざるをえないものもありました。次号が楽しみでもあります。
 ☆参考に昔の会報を繙いてみますと、興味深い記事が多く、ついつい読み耽ってしまいました。これらの記事が又、目の目を見るのもよろしいかと思えます。
 ☆皆様のご協力に感謝いたしております。

お伝えしようと、「歴史を紐解く」や「母校の様子」、「男子卒業生の登場」などを企画し、ワクワクドキドキの編集でした。

☆皆様から寄せられた内容は、御覧のようにはすばらしく、「同窓会なんてー。」とおっしゃる方がいらつしやいますが、記事の行間から元気を貰い身近に和みを感じられたのではないのでしょうか？
 本来、同窓会とはそういうものではないかと思えます。

☆「同期会だより」はそれぞれの学年の企画に「さすが二葉生」と脱帽の思いです。こんな同期会をいつまでも続けて戴きたい気持ちでいっぱいです。
 ☆不安だった「活躍する同窓生」探しは嬉しいことに次々と紹介して下さる方があり、割愛せざるをえないものもありました。次号が楽しみでもあります。
 ☆参考に昔の会報を繙いてみますと、興味深い記事が多く、ついつい読み耽ってしまいました。これらの記事が又、目の目を見るのもよろしいかと思えます。
 ☆皆様のご協力に感謝いたしております。